

別記

第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和6年3月14日

コミュニティ名 肢体不自由教育実践向上コミュニティ
代表者所属名 京都府立向日が丘支援学校
代表者職・氏名 教諭 加藤 亜希

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

肢体不自由教育実践向上コミュニティ

2 研究テーマ

肢体不自由のある児童生徒の生きる力を育むための授業づくり

3 研究の目的

学習指導要領の趣旨を踏まえ、肢体不自由のある児童生徒が主体的に社会と関わる「生きる力」を育むための授業づくりについて研究を深めたい。昨年度までの研究成果を発展させ、肢体不自由のある児童生徒の授業づくりにおいて、各教科等の目標・内容をおさえながら授業づくりに取り組み、コミュニティ参加者一人ひとりの専門性を高めるとともに、コミュニティ参加者による研究をとおして各学校におけるより良い授業づくりに貢献したい。

4 研究の成果と課題

各校の実践報告と研究協議を行いながら、肢体不自由のある児童生徒の「生きる力」を育むための授業づくりについて深め、今年度の研究成果として、大きく3つの柱に整理することができた。
1つめは「各教科等を合わせた指導における大切な視点」、2つめは「適切な指導の形態について、学校生活の中での位置づけ・単元のまとまり等を意識しながら吟味すること」そして3つは「個々の障害への丁寧なアセスメントや障

害特性に応じた適切な支援の大切さ」である。

上記の内容について整理をしていくことでコミュニティ内での授業づくりや改善を行う視点が共有化され、個々の授業力の向上につながった。

【課題】

これまでの研究成果を京都府内へ還元する方法を模索中である。これまでの学びについて整理し、リーフレット等にまとめることを検討している。

5 研究成果の波及方法

- ・参加校内でコミュニティ資料を随時閲覧できるようにし、情報発信を行うと同時に、参加校での授業づくりの悩みをコミュニティ活動内で報告し、それらに対するアイデア、情報提供等をフィードバックした。
- ・京都府教育委員会が企画する当該事業の報告会における発表をとおして、府内全域へ波及させる。
- ・初任者研修等の研修会講師の機会において、コミュニティ活動で得た知見を活かした研修内容を設定することができた。

6 研究（活動）実績

年月日	研究（活動）内容（具体的に記入）	活動場所
R5.6.12	発足会、今年度の研究方針について	丹波支援学校
R5.8.18	実践報告（向日が丘支援学校）研究協議、研修報告	丹波支援学校
R5.12.1	実践報告（舞鶴支援学校、中丹支援学校）研究協議	宇治支援学校
R6.1.7	実践報告（南山城支援学校、丹波支援学校亀岡分校）研究協議	向日が丘支援学校
R6.1.30	実践報告（井手やまぶき支援学校）、研究まとめ	オンライン